

会 報

No.39 (1991年6月)

目 次

- ◆日本分子生物学会第7期評議員選挙結果…………… 1
- ◆日本分子生物学会評議員会議事録要旨…………… 1
- ◆第14回日本分子生物学会年会のお知らせ…………… 3
- ◆学会費納入について…………… 9
- ◆日本分子生物学会入会申込みの手順…………… 9
- ◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について…………… 9
- ◆第18回(平成3年度)日産学術研究助成の募集について……………12
- ◆第2回日本微量元素学会会告……………12
- ◆千里ライフサイエンスセミナー
「血管病変の分子生物学第1回」……………13
- ◆千里ライフサイエンスシンポジウム「免疫'91」……………13
- ◆日本学術会議より……………14

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆日本分子生物学会第7期評議員選挙結果

投票締切： 1991年3月22日

開票日： 1991年3月27日

開票場所： 京都大学

開票者： 選挙管理委員（本庶佑、清水章、山岸秀夫）

投票者数： 247名（1名あたり10票）

有効票数： 2,104票

無効票数： 78票

白票数： 288票

上位20名の当選者は下記のとおりです。（50音順）

饗場 弘二	石浜 明	岩渕 雅樹	大石 道夫
小川 英行	大島 靖美	小関 治男	榊 佳之
高浪 満	谷口 維紹	富沢 純一	豊島久真男
中西 重忠	松原 謙一	三浦謹一郎	水野 重樹
村松 正実	柳田 充弘	由良 隆	吉川 寛

◆日本分子生物学会評議員会議事録要旨

日時： 1991年4月16日 15:00~17:30

場所： 京都センチュリーホテル

出席者：饗場 弘二 岩渕 雅樹 大石 道夫 大島 靖美

小関 治男 高浪 満 谷口 維紹 富沢 純一

松原 謙一 三浦謹一郎 水野 重樹 由良 隆

吉川 寛（以上評議員）

関口 睦夫（前会長） 清水 憲二（前庶務幹事）

西郷 薫（前会計幹事） 今本 文男（第15回年会会長）

議事：

(1) 会長選挙

規約にのっとり評議員の互選により、三浦謹一郎氏を第7期（1991年4月1日から1993年3月31日まで）会長として選出した。

(2) 選考委員選挙

評議員の互選により次の5氏を選考委員として選出した。

大石 道夫 高浪 満 村松 正実 由良 隆 吉川 寛

(3) 会計監査の選任

投票により、山本正幸、池田日出男の両氏を会計監査として選出した。

(4) 幹事、その他

庶務、会計、編集、集会、各幹事の人選については会長に一任し、後日承認することになった。

報告事項など：

- (1) 関口前会長より、① 年会のあり方 ② 欧文誌 ③ 科学研究費、の3課題を中心に第6期執行部の活動報告があった。
- (2) 大島評議員（前集会幹事）より本年度（第14回）年会の準備状況について報告があった。
- (3) 今本第15回年会会長より来年度年会の構想について説明があった。
- (4) 富沢評議員より、欧文誌発行に関する私見が述べられた。
- (5) 三浦会長より幹事への謝金支出を具体化する方針が述べられた。

◆第14回（1991年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2）

第14回年会を1991年12月17日(火)―20日(金)の4日間、福岡サンパレスおよび福岡国際センターで開催します。詳細については後日（11月中旬の予定）お送りするプログラムでお知らせしますが、大会スケジュールのあらまはは下記の通りです。一般発表はすべてポスターとします。シンポジウムは一般発表とは独立に行い下記のように公募致します。

特別講演

特別講演は下記の2博士にお願い致しました。もう1名の演者を予定しておりましたが、最近急に断ってこられましたので、現在別の方を交渉中です。

- A. B. Pardee 博士 : ハーバード大学 Dana Farber がん研究所 (細胞周期の制御)
 R. Sager 博士 : 同上 (がん抑制遺伝子)

日 程 表 (予 定)

	12月17日(火)	12月18日(水)	12月19日(木)	12月20日(金)
9:00				
9:30	ポスター説明	ポスター説明	ポスター説明	ポスター説明
10:30				
11:00	ポスター説明	ポスター説明	ポスター説明	ポスター説明
12:00				
13:30	特別講演 1	特別講演 2	特別講演 3	
14:30				シンポジウム (3時間)
14:45				
16:30	シンポジウム (3時間)	シンポジウム (3時間)	シンポジウム (2.5時間)	16:30
17:45	ビールアワー	ビールアワー	17:15 17:30 総 会	
19:00			懇親会	
21:00				

シンポジウム

シンポジウム案を以下の要領で募集致します。他の学会のシンポジウムにないユニークなものを歓迎します。奮って御応募下さい。

- (1) シンポジウムの名称, 世話人(所属, 連絡先), 予定演者およびその簡単な演題, 希望会場, 予定時間をお書き下さい。
- (2) 会場は, 2,300人(1会場, 4日), 500人(1会場, 4日), 200人(1会場, 4日), 180人(2会場, 4日; 余り良くない)が利用可能です。
- (3) 1シンポジウムの時間は2時間30分~3時間とします。
- (4) シンポジウムの採択数は10~20の間で考えています。多数の応募がある場合など採択できないこともありますので, 採否は準備委員会にお任せ下さい。
- (5) 締切日 1991年7月15日(月)必着
- (6) 申込書送付先

〒812 福岡市東区馬出3-1-1
九州大学薬学部内
第14回日本分子生物学会年会準備委員会
堀内忠郎
電 話 (092) 641-1151 ex. 6186
F a x (092) 632-6648

一般発表

すでに会報 No. 38 (1991年2月)でお知らせしたように, 一般発表はすべてポスターといたします。下記の要領に従いお申込み下さい。ポスター発表は4日間を通じて約1,400題を予定しています。

ポスター掲示時間は, 終日(9時より19時まで), ただし最終日は16時30分までの予定です。発表者は, 指定の時間帯(9時30分-10時30分, もしくは11時-12時のいずれかの予定)にはポスターの前に立ち, 口頭説明をし, 質問・討論に備えて下さい。ポスター掲示のスペースは, 高さ150cm幅150cm(右側に約30cmの余裕有り)を予定しています。

- (1) ポスター発表の代表者は, 本年度会費既納の本学会会員に限り, 1人1題とします。
なお, 他のポスター発表の連名者, シンポジウムの発表者・連名者となることは差し支えありません。
- (2) 発表申込み締切日 1991年8月31日(土)必着

(3) 申込書送付先

〒530 大阪市北区松ヶ枝町6-3 第10田淵ビル 2階
財団法人日本学会事務センター大阪事務所内
第14回日本分子生物学会年会係
電 話 (06) 356-6041
F a x (06) 356-6190

(3) ポスター発表の申込みは、とじ込みの用紙(発表申込書、プログラム編成用カード、人名索引用カード、発表要旨)に必要な事項を記入・印字し、要旨のコピー3部を添え、書留便で年会係までお送り下さい。なお、プログラム編集などについて希望があれば、申込書の通信欄にお書き下さい。ただし、希望に沿えないこともあります。また、別の手紙を添付または同封しないで下さい。

(4) ポスター発表の代表発表者の本年度会費納入を確認するために、申込み書の指定の欄に、会費払い込みの際に郵便局が発行する領収書のコピーを貼付して下さい。

なお、入会手続き中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、日本学会事務センターより会費の請求書が送付されますのでご注意下さい。会費未納の場合には、発表申込を受理できませんのでご注意下さい。

(5) ポスター発表演題受取書は、申込用紙到着後に代表発表者の本年度会費納入を確認の上、返送します。ポスター発表の日時についての通知は、会員の方々に送付されるプログラムをもって代えます。ポスター発表演題は申込みの形式および内容に関して不備、あるいは不相当と考えられる場合には、不採用のこともありますのでご承知下さい。

(6) 発表申込用紙など記入上の注意

- a. 用紙は切り離さずに郵送して下さい。
- b. *印の項には記入しないで下さい。
- c. 要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサ、またはタイプライターで直接印書するか、または印書したものをていねいに糊付けしてください。代表者の前には○印をつけて下さい。所属は略称を用いて下さい。また、鮮明なコピー3部を添付して下さい。
- d. プログラム編集用カードに従ってプログラムを編集・印刷します。「演題」「氏名

- 所属」を要旨に記載のものと全く同じに記入して下さい。なお、同一研究グループで複数の関連演題を発表する場合に、ポスターなどの掲示の順序に希望があれば、その旨を申込書の通信欄に記入して下さい。
- e. 人名索引用カードには、演者および連名の方全てについて1枠に1名ずつ記入して下さい。
- f. 発表申込書には、「演題」「氏名所属」と共に、連絡者1名の氏名、住所、電話番号を記入して下さい。
- g. ポスター発表の内容について、分類表から希望するものを選び、番号およびアルファベットで記入して下さい(例：I-b-1, III-a など)。昨年度に引続き研究内容中心の分類を採用しています。また「遺伝子の分子構造」については、構造そのものに興味がある場合のみ「遺伝子(塩基配列の多様性)」の項を選ぶこととし、その他の場合にはできる限りその内容に沿った項目を選ぶようにして下さい。
- h. 受取書の葉書には「演題」を記入して下さい。また、裏面には宛名を記入し、41円の切手を貼って下さい。切手が貼られていない場合には返送致しません。

参加申込みおよび参加費

- (1) 年会参加費は、前納の場合一般5,000円、学生4,000円です。当日受付の場合は、それぞれ、6,000円、5,000円となりますのでご注意ください。参加費には、発表要旨集1部の代金が含まれています。なお、要旨集のみ希望の方には、会員2,000円(ただし、会員1人につき1部のみ)、非会員4,000円でお頒けします。
- (2) 本年度は、懇親会を12月19日(木)19時より福岡サンパレス内パレスホールにおいて開催する予定です。懇親会費は5,000円です。奮ってご参加下さい。
- (3) 年会参加費、要旨集代金、懇親会費の払い込みには、同封の振替用紙をご利用下さい。

同封の用紙を使用されない場合には、必ず通信欄に、第14回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所・氏名をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金下さい。なお、整理の都合上、申込者1人につき1枚の振替用紙をご使用下さい。

口座番号 大阪2-22357

加入者名 財団法人日本学会事務センター大阪事務所

- (4) 11月20日までに参加費を払い込まれた方には、年会前に発表要旨集を郵送します。11月21日以降に振り込まれた場合には、年会会場にて要旨集をお渡しすることになりますのでご注意ください。

- (5) 参加費払い込みの領収書は、原則としてお送りしませんのでご了承下さい。念のため、郵便局の領収書を保管しておいて下さい。
- (6) 当日申し込まれる方は、会場受付で参加費をお支払い下さい。
- (7) 年会期間中の宿泊、JR、航空券の手配については、日本交通公社(JTB)団体旅行九州支店よりご案内します。
- (8)第14回年会に関する問い合わせ先：

(財)日本学会事務センター大阪事務所内

第14回日本分子生物学会年会係

電 話：(06) 356-6041

F a x：(06) 356-6190

なお、第14回年会準備委員会の構成は下記の通りです。

穴井 元昭	井本 泰治	岩永 貞昭	大島 靖美
大村 恒雄	古賀 克己	榊 佳之	笹月 健彦
清水 憲二	関口 睦夫	谷 時雄	中村 敏一
中山 宏明	西本 毅治	野本亀久雄	服巻 保幸
船津 軍喜	堀内忠郎(委員長)		
三木 健良	水野 健作	安河内孝徳	山崎 常行
山崎 信行	山名 清隆	渡邊 武	

ポスター発表分類表

(I) 分子構造

- (a) 遺伝子 (塩基配列の多様性)
 - (b) ゲノム解析
 - (c) 蛋白質 (構造, 機能)
 - (d) 核酸 (物理, 化学)
 - (e) 分子集合
 - (f) 分子進化
 - (g) その他
- (1) 真核生物
 - (2) 原核生物
 - (3) ウィルス, ファージ
 - (4) 染色体外遺伝子

(II) 分子機能

- (a) 複製 (DNA, RNA, 染色体)
 - (b) 変異, 修復
 - (c) 組換え
 - (d) 転写
 - (e) 転写制御因子
 - (f) RNA のプロセッシング
 - (g) 翻訳
 - (h) 蛋白質のプロセッシングと局在化
 - (i) その他
- (1) 真核生物
 - (2) 原核生物
 - (3) ウィルス, ファージ
 - (4) 染色体外遺伝子

(III) 細胞の構造

- (a) 核および核内構造 (染色体, クロマチン, 核小体)
- (b) 生体膜, エネルギー
- (c) 細胞骨格, 運動
- (d) 細胞質オルガネラ (ミトコンドリア, クロロプラストなど)
- (e) その他

(IV) 細胞の機能

- (a) 情報伝達
 - (1) 成長因子, 分化因子, ホルモン, 受容体
 - (2) その他の生理活性物質
 - (3) 細胞内情報伝達
 - (4) その他
- (b) 細胞増殖
 - (1) 細胞周期, 細胞分裂
 - (2) 癌化 (ウィルスも含む)
 - (3) 癌遺伝子の機能
 - (4) 増殖関連遺伝子の機能
 - (5) その他

(V) 高次生命現象

- (a) 発生, 分化
- (b) 免疫
- (c) 神経, 行動
- (d) 病因解析, 診断 (ウィルスを含む), 老化
- (e) その他

(VI) 分子生物学の方法論, 技術

- (a) 遺伝子工学
- (b) 蛋白質工学
- (c) 細胞工学
- (d) 発生工学
- (e) その他

◆学会費納入についてのお願い

1. 平成3年度分および未納分の学会費を4月上旬にお送りした請求書(郵便振替用紙)により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を日本学会事務センターへ提出して下さい。

記

正会員学会費 2,500円

(但し、在学証明書を提出したときは2,000円)

学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 学会講演申し込みには、学会費納入控(または領収書)のコピーを添付することが必要です。講演を希望される方は、学会費納入控(または領収書)を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申し込み下さい。所定の書式をお送り致します。

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

(財) 日本学会事務センター

日本分子生物学会係

電話 (03)3817-5801

◆学術賞及び研究助成金の本学会推薦について

学術賞及び研究助成金の本学会よりの推薦は本学会選考委員の意見にしたがって行いますが、そのために必要な資料部数及び期限は次の通りです。

1. 資料：①本申請に必要な申請資料(オリジナル+募集要項に記載されている部数のコピー)及び論文
②本学会の5名の選考委員用に上記申請資料のコピー5部(論文は不要)
2. 期限：本申請の概ね1か月前までに〒113 東京都文京区本郷7-3-1, 東京大学工学部工業化学科第4講座, 日本分子生物学会会長事務局まで郵送して下さい。
3. 葉書：申込受付確認のため返信用葉書に宛名を書いて同封して下さい。

☞ 資料②を同封せずに応募される人がかなりあります。ご注意ください。

参考までに昨年度本会宛に推薦依頼のあった各種賞・助成などの締切日を御案内致します。御留意の上、適宜お申し込み下さい。なお、本会への郵送は学会推薦の選考のため、この締切りの1か月前に締切りますので御注意下さい。

国際生物学賞	国際生物学賞委員会 (03)3263-1721 102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル, 日本学術 振興会内	1件	6月30日	賞状, 賞牌 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ, 世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者。(授賞分野は各年度毎に決定する。)
井上学術賞	助井上科学振興財団 (03)3477-2738 150 渋谷区猿楽町11-20	5件以内 (1件)	9月20日	1件メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者(但し締切日現在満50歳未満)。
日産学術研究助成	助日産科学振興財団 (03)3543-5597 104 中央区銀座6-17-2	④⑤各 ～10件 (各2件) ⑥～35件 (全件)	8月31日	共同研究 1件 ④1500万円 ⑤300万円 個人研究 ⑥200万円 以下	自然科学分野の基礎的な研究に従事し, 1～3年間を要する研究を行おうとする研究者および研究グループで, その研究成果が学術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと思われるもの。
東レ科学技術賞	助東レ科学振興会 (0473)50-6103 279 千葉県浦安市美浜 1-8-1東レビル	2件前後 (2件)	10月11日	金メダル 2件前後 300万円	学術上の業績顕著なもの, 学術上重要な発見をしたもの, 重要な発明により効果が大きいもの, 技術上の重要問題を解決し貢献が大きいもの。
東レ科学技術研究助成		総額1億 円前後 (2件)	10月11日	1件1,000 万円程度	理・工学分野で独創的, 萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者, またはそのグループ。
ブレインサイエンス財団研究助成 塚原伸晃記念賞	助ブレインサイエンス振興財団 (03)3273-2565 104 中央区八重洲2丁目 6-20	6件 (1件) 1件	12月20日	1件 100万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において, 独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
山田科学振興財団研究援助	助山田科学振興財団 (06)757-3311 544 大阪市生野区巽西 1-8-1	総額 6,000万円 (2件)	3月31日	1件につき 300万円～ 700万円	自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人またはグループに対し助成。 10件内外。
上原賞	助上原記念生命科学財団 (03)3985-3500 171 豊島区高田3-25-3	2件以内 (1件)	9月10日	金牌 1,000万円	生命科学の栄養学, 薬学, 基礎および臨床医学, 社会医学で顕著な業績をあげた者

これは昨年度の要項をもとにまとめたものであり, 締切日や受賞対象分野が変更されることもありますので, 申請を希望の方は, 必ず詳細を関係先へ御照会下さい。()内の件数は学会からの推薦枠。

○1991年度山田科学振興財団研究援助に申請のあった下記1件を本学会より推薦した。

浜田 博司（東京大学医学部）

「神経発生におけるPou転写調節因子群の役割」

○日産科学振興財団より、第17回（平成2年度）日産学術研究助成として、本学会推薦のうち下記1件が採択されたとの連絡があった。

（奨励研究）畠山 昌則（大阪大学細胞工学センター）

「IL-2依存性リンパ球増殖に関するチロシンキナーゼの同定と解析」

◆第18回（平成3年度）日産学術研究助成の募集について

学会からの推薦枠に変更があり、一般研究A、B各2件以内となってこれまでより一件増えました。その他は従来通りです。

研究助成課題

- 1, 人間と機器との係わりに関する研究（重点助成課題）
- 2, 資源・エネルギーに関する研究
- 3, 自然環境及び都市環境に関する研究
- 4, 新しい機能材料の研究
- 5, 生命現象に関する研究

研究助成要約

研究の種類別	一般研究助成		奨励研究助成
	(A)	(B)	
研究の性格	研究が長期にわたる学際的グループ研究 (共同研究に限る)	学際的グループ研究へ向けての調査・準備的研究または短期間に成果が期待できる研究 (共同研究に限る)	若手研究者による萌芽的・独創的研究 (個人研究)
1件当りの助成金額	1,500万円限度	300万円限度	200万円限度
助成金の総額 (採択件数)	約13,500万円 (10件程度)	約3,000万円 (10件程度)	約5,500万円 (35件程度)
助成金の支払期間	平成4年度(4/4~5/3)助成第1年度とする。 助成期間2~3年	平成4年度に交付 助成期間1年	同左 助成期間1年

締切日

学・協会から当財団への推薦締切日は、平成3年8月31日(土)。

◆第2回日本微量元素学会会告

- 会期：平成3年7月4日(木)、7月5日(金)
- 会場：オオサカサンパレス：〒565大阪府吹田市千里万博公園1-5 ☎06-878-3804 FAX 06-878-3456
- 会長：岡田 正(大阪大学 小児外科)
- 講演：
 1. 招待講演：Prof. Delbert D Hemphill(Univ. of Missouri System)
「Research on trace elements-essential and toxic : A 25 year perspective」
 2. 教育講演：和田 攻(東京大学衛生学)「微量元素の必須性と有害性：クロムとニッケルを中心に」
 3. シンポジウム：
 - I) 酸化的障害と微量元素 [司会：井村伸正、谷口直之]
 - II) 微量元素と治療をめぐる諸問題 [司会：丸茂文昭、高木洋治]
 4. ワークショップ：
 微量元素の測定法並びに基準値に関する問題点 [司会：原口紘先、二島太一郎]
 5. 会長講演：
 6. 一般演題：
- 会場費：3,000円(当日受付)
- 問い合わせ先：大阪大学 小児外科 第2回日本微量元素学会事務局(高木洋治)

☎06-451-0051 (内線2655)、06-451-4817 (直通)、FAX 06-454-1657

- 本学会は個人会員制です。演者(共同演者を含む)は会員に限ります。
- 入会問合わせ先および入会申込先: 日本微量元素学会事務局 日本大学医学部化学教室内
〒173 東京都板橋区大谷口上町30-1 TEL. 03-3972-8111 (内線2296) FAX 03-5995-6956

◆千里ライフサイエンスセミナー 「血管病変の分子生物学 第1回」

日 時: 平成3年9月20日(金) 午前10時~午後4時

場 所: 信用保証ビル3F

(地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町1-2-4

TEL 06(835)2715)

主 催: 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛: 株式会社千里ライフサイエンスセンター

プログラム

1. 血流と内皮細胞

(北海道大学応用電気研究所講師) 安藤 譲二

2. リポ蛋白と動脈硬化

(国立循環器病センター研究所副所長)

山本 章

3. 血栓と動脈硬化

(鹿児島大学医学部第三内科助教授) 丸山 征郎

4. マクロファージと動脈硬化

(京都大学医学部老年医学教授) 北 徹

5. 平滑筋細胞の相転換

(東京大学医学部第三内科講師) 永井 良三

受講料: 主催・協賛団体会員: 5,000円

一般(非会員) : 7,000円

大学関係 : 3,000円

(講演要旨集合む)

参加申込締切: 定員(150名)になり次第締切

参加申込方法: ①会社団体名②所在地(〒、TELも)

③氏名④年齢⑤所属・役職名⑥振込月日を明記の上、葉書(又はFAX)でお申し込み下さい。

参加費は大和銀行千里中央支店・普通預金 No.4601085・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込下さい。なお振込の際振込書名の前にK1とご記入下さい。

申込先: 〒565 豊中市新千里東町1-4-1 阪急千里中央

ビル9階(財)千里ライフサイエンス振興財団

「血管病変」セミナー係 TEL. (06)871-5535

FAX. (06)871-5530

担当: 西村・松尾

◆千里ライフサイエンスシンポジウム「免疫'91」

日 時: 平成3年9月26日(木) 午前10時~午後5時

場 所: 千里協栄生命ホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

(大阪府豊中市新千里西町1-1-10

TEL. 06(834)6555)

主 催: 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛: 株式会社千里ライフサイエンスセンター

プログラム

1. リンパ球分化の分子生物学

(京都大学医学部教授) 本庶 佑

2. 造血リンパ球系細胞の増殖分化と調節因子

(熊本大学医学部附属免疫医学研究施設教授) 西川 伸一

3. Tリンパ球の抗原認識

(九州大学生体防御医学研究所教授) 笹月 健彦

4. サイトカインによる細胞応答の制御

(大阪大学細胞工学センター教授・谷口 維紹

千里ライフサイエンス振興財団 評議員)

5. 腫瘍免疫を担う分子、パーホリン

(順天堂大学医学部教授) 奥村 康

6. 免疫病制御へのアプローチ

(大阪大学医学部教授・岸本 忠三

千里ライフサイエンス振興財団 理事)

受講料 主催・協賛団体会員: 7,000円

一般(非会員) : 9,000円

大学関係 : 5,000円

学生 : 3,000円

(講演要旨集合む)

参加申込締切: 定員(400名)になり次第締切

参加申込方法: ①会社団体名②所在地(〒、TELも)

③氏名④年齢⑤所属・役職名⑥振込月日を明記の上、葉書(又はFAX)で下記宛お申し込み下さい。

参加費は三和銀行本店・普通預金 No.1811008・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込下さい。なお振込の際振込者名の前にSIとご記入下さい。

申込先: 〒565 豊中市新千里東町1-4-1 阪急千里中央

ビル9階(財)千里ライフサイエンス振興財団

シンポジウム係 担当は上に同じ。

公開講演会成功裡に開催さる

平成3年2月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、例年どおり、平成2年度においても、主催の公開講演会を3回開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、その講演会に加えて、本会議の国際的活動や最近公表された「委員会報告」などについてお知らせします。

平成2年度日本学術会議主催公開講演会

本会議は、本会議の会員が、学術の成果について広く市民と語り合う機会として、時宜にかなったテーマを選定して、毎年、公開講演会を開催している。本年度は、次の3回の講演会を開催したが、いずれも成功裡に終了した。

I 公開講演会「高度技術と市民生活」

標記講演会は、去る平成2年10月13日(土)13時30分～17時に、兵庫県加東郡社町の社町福祉センターホールで、約250人の聴講者を得て開催された。各演題と講師は、①「高齢化社会と高度技術」原沢道美(第7部会員、東京通信病院院長)、②「消費生活と高度技術」正田彬(第2部会員、上智大学教授)、③「地域振興と人間主導型高度技術」竹内啓(第3部会員、東京大学教授)であった。

II 公開講演会「資源エネルギーと地球環境に関する展望」

標記講演会は、去る平成2年10月30日(火)13時～17時に、本会議講堂で、約330人の聴講者を得て開催された。各演題と講師は、①「人間と環境」大島康行(第4部会員、早稲田大学教授)、②「エネルギーと環境」石井吉徳(第5部会員、東京大学教授)、③「エネルギーと経済問題」則武保夫(第3部会員、立正大学教授)、④「エネルギーとCO₂対策」上之園親佐(第5部会員、摂南大学教授)であった。

III 公開講演会「人間は21世紀を生きられるか」

標記講演会は、去る平成3年2月19日(火)13時30分～17時に、本会議講堂で約200人の聴講者を得て開催された。各演題と講師は、①「科学・技術・政策」杉本大一郎(第4部会員、東京大学教授)、②「科学と人間—生存のための条件づくり」下山瑛二(第2部会員、大東文化大学教授)、③「人間の適応能力とリスク」土屋健三郎(第7部会員、産業医科大学長)であった。

いずれの講演会も、時期にあった、関心を呼ぶ企画であったため、多くの聴講者が来場する盛会となり、また、各講師の講演後の質疑応答では、聴講者から活発な質問や意見の開陳がなされ、まさに市民との対話の感があり、極めて有意義であった。

なお、これらの講演会については、後日、「日学双書」として、(財)日本学術協力財団から出版される予定である。

平成2年度二国間学術交流事業

本会議では、二国間学術交流事業として、毎年2つの代表団を外国に派遣し、各訪問国の科学者等と学術上の諸問題について意見交換を行って、相互理解の促進を図る事業を行っている。

この事業は、昭和58年度から実施されており、これまで、アメリカ、マレーシア、西ドイツ、インドネシア、スウェーデン、タイ、フランス、大韓民国、連合王国、シンガポール、チェコスロヴァキア、ポーランド、カナダ、イタリア、スイス及びインドの16か国に代表団を派遣してきた。

平成2年度には、①9月11日から22日まで、中華人民共和国へ、渡辺格副会長以下4名の会員等から成る代表団を、②9月17日から27日まで、オーストラリア及びニュー・ジーランドへ、大石泰彦副会長以下5名の会員等から成る代表団をそれぞれ派遣した。

中華人民共和国派遣代表団は、中国科学院、中国社会科学院、中国医学科学院、北京大学、西安交通大学、復旦大学など約20機関を訪問し、中華人民共和国の学術の今後の交流の推進策などについて会談、意見交換を行った。中華人民共和国側からは、すでに、日本の多くの大学、研究機関と交流を行っているが、さらに交流を拡大したいとの期待が表明され、両国間の今後のより積極的な交流・協力をめぐる活発な意見の交換が行われた。

オーストラリア及びニュー・ジーランド派遣代表団は、オーストラリアでは、オーストラリア科学アカデミー、オーストラリア国立大学、シドニー大学、連邦科学・産業研究機構など、ニュー・ジーランドでは、ニュー・ジーランド王立協会、マッセイ大学、ヴィクトリア大学、科学技術研究機構など、両国合わせて20を超える諸機関を訪問し、それぞれの国の学術、今後の交流の可能性などについて、会談、意見交換を行った。特に、両国では近年、国家、国民に実際に役立つ技術の発展を目指した科学技術の大きな改革が進められており、これらの問題等について、熱心に意見の交換が行われた。

今回の成果は、代表団派遣時だけのものではなく、今後のわが国の学術の国際交流・協力の進展に大きく役立つものと期待される。

平成3年(1991年)度共同主催国際会議

本会議は、国際的な活動の一環として、毎年、日本で開催される学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催してきている。平成3年(1991年)度には、次の6件の国際会議を開催する。

■第21回国際農業経済学会議

開催期間 平成3年8月22日～29日
開催場所 京王プラザホテル(東京都新宿区)
参加者数 国外550人, 国内950人, 計1,500人
共催団体 日本農業経済学会外4学会

■国際医用物理・生体工学会議(第16回国際医用生体工学会議・第9回国際医学物理学会議)

開催期間 平成3年7月7日～12日
開催場所 国立京都国際会館(京都市)
参加者数 国外1,000人, 国内1,500人, 計2,500人
共催団体 (社)日本エム・イー学会, 日本医学物理学会

■国際純正・応用化学連合1991国際分析科学学会議

開催期間 平成3年8月25日～31日
開催場所 日本コンベンションセンター(千葉市)
参加者数 国外500人, 国内1,000人, 計1,500人
共催団体 (社)日本分析化学会

■第22回国際シミュレーション&ゲーミング学会総会

開催期間 平成3年7月15日～19日
開催場所 立命館大学, 国立京都国際会館(京都市)
参加者数 国外170人, 国内300人, 計470人
共催団体 日本シミュレーション&ゲーミング学会

■一般相対論に関する第6回マールセルグロスマン会議

開催期間 平成3年6月23日～29日
開催場所 国立京都国際会館(京都市)
参加者数 国外380人, 国内170人, 計550人
共催団体 (社)日本物理学会

■第22回国際動物行動学会議

開催期間 平成3年8月22日～29日
開催場所 大谷大学(京都市)
参加者数 国外400人, 国内400人, 計800人
共催団体 日本動物行動学会

経営学研究連絡委員会報告—経営学教育改善のために—(要旨)

(平成2年11月26日 第763回運営審議会承認)

企業環境の激変, 就中技術革新, 高度情報化, 国際化等々の急進展に伴って, 経営学教育は, 大きく見直され, かつ新たな体系化と一層の内容の充実の必要性に迫られている。すなわち, 学術的分野の広がり, 国際化や情報化の急進展は, 経営学の外延的拡大を要請し, また経営管理の高度化, 複雑化および戦略的視点の重要性増加は, 斯学の多面的な内容の充実強化を要求している。本報告は, かかる状況下において経営学教育の現状分析を行い, かつ(1)教育体系(とくにカリキュラム)の再編成と(2)教育方式の新たな在り方を探り, もって経営学に対する社会的ニーズへの即応と経営学教育の総合的な体系化への試みを展開したものである。とくに教育する側, される側両面での人材育成を強く念頭に置いて経営学教育改善の方途を示すとともに, 大学院教育へのつながりを意識しながら将来への展望を示唆しようとしたものである。

統計学研究連絡委員会報告—統計学研究教育体制の整備のための具体的方策について(要旨)

(平成2年12月21日 第764回運営審議会承認)

現今, 高度情報化の進展による情報資源の急激な蓄積にともない, 統計的情報処理を適切に行える人材に対する社会的需要が著しく高まっている。現在米国では60を超える大学に統計学科が存在するのに対し, 我が国では統計学関連の大学院専攻はただ一つあるのみである。最近の学術研究における, 調査, 実験, 観測等の活動の急速な増大を考慮するとき, データ有効利用の学としての統計学の研究教育体制の不備は, 我が国の学術研究の将来に対し, 国際的に見て著しく不利な状況を生み出している。

本報告では, 統計学を一つの専門分野として狭く捉える従来の考え方を避け, 本来学際的な性格を持つ統計学研究の実態に即して, 諸科学との関連をより重視する統計科学の概念を確立し, 広範な関連分野の研究者の協力により統計科学研究所あるいは専攻等を設立することの推進を提案する。この提案を具体化するることにより, 国際的に見ても先進的な統計学研究教育体制を実現することが可能になるものと期待される。

実験動物研究連絡委員会報告—動物実験を支援する人材育成について—(要旨)

(平成2年12月21日 第764回運営審議会承認)

医学, 生物学領域において, 動物を用いた実験研究が先導的な形で寄与し, 社会に貢献してきたことの意義は大きい。遺伝子・分子・細胞の各レベルにおける研究成果を総合して個体の生物機能・生理現象を理解し, 病的現象に的確な対応を図るために, 個体レベルの研究, すなわち, 動物実験による研究の必要性はますます増加し, 多種類かつ高品質の動物が精細な計画・技術のもとで実験に供されるようになった。以上の観点から動物実験を取り囲む現状を詳しく検討した結果, 動物実験の高度化・多様化に対応できる, 専門的知識と技術を習得した技術者の数が著しく不足していることを強く認識するに至った。

本報告は, このような現状に対する改善の方向を明らかにするとともに, バイオサイエンス研究支援体制を一層整備するための方策として, 特に動物実験技術者の教育機関の設立を中心に, 技術の審査・認定制度の確立, 技術者の採用制度の検討, 身分・処遇保障等についての将来展望を示唆するものである。

日学双書の刊行案内

日本学術会議主催公開講演会の記録をもとに編集された次の日学双書が刊行されました。

・日学双書No.10「くらしと学問の近未来」

〔定価〕1,000円(消費税込み, 送料210円)

※問い合わせ先:

(財)日本学術協力財団(〒106 東京都港区西麻布3-24-2, 交通安全教育センタービル内, TEL03-3403-9788)

御意見・お問い合わせ等がありましたら, 下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

日本分子生物学会 会報

年3回刊行(2.6.11月)

第39号(1991年6月)

発行:日本分子生物学会庶務幹事

印刷:一正堂(福岡市東区箱崎6-14-17)